

第1回小学校教育フォーラム

新しい教科書で、何をどう教えるか？ —4割増の教科書を、どう学力向上につなげるか—

2010年9月4日（土）

この「第1回 小学校教育フォーラム」は、新学習指導要領の実施を目前にした現場の先生方を対象に考えた企画である。本大学大学院教授の無藤先生と東京学芸大学教授の浅沼先生の講演会を皮切りとして、次年度教科書の編集趣旨を、東京書籍・教育出版・学校図書・大日本図書の4社の編集担当者から話してもらった。

その後、2つのシンポジウムにわかれ、会場の参加者と共に話し合いをするという形をとった。

参加者の感想を読むと、「先取りしたいいい取り組みだった。白梅の先見性が素晴らしかった」といった内容をよせてくれていたのが、大変嬉しかった。他の感想についても、おおむね好評であったことが見てとれた。

しかしながら、定員150名のところ、参加者が40名であった。受講料を取ったからというより、9月の段階では次年度教科書にそれほど関心を深く持っていなかったのかもしれないと感じた。8月に新教科書の採択が行われ、それが終わった後でないといこのフォーラムを開催出来なかったのが残念であった。

また、採択が行われたといっても、現場の先生方は教科書を詳細に見たわけではない。全部の教科書に目を通す必要があるため、どうしても一つひとつの教科書を丁寧に分析するまでには至っていない。そのため、その教科書を具体的にどのように学力向上につなげるかといった問題意識とつなげて見る余裕がなかったのではないかと思われる。

また、現場の先生方は、「次年度教科書を、ど

のように学力向上につなげるのか？」という問題意識は多少持ちながらも、「とりあえず、次年度教科書でどのように授業を進めていくか」については、教科書を手にしてから考えるというスタンスであったのかもしれない。

そうしたスタンスに切り込む、魅力ある内容を盛り込んだつもりであったが、現場の先生方にそのことが十分伝わっていなかったことが、非常に残念であった。

しかしながら、参加者と私たちが次年度教科書について深く学べたことは、大きな収穫であったし、教育実習や教科指導法などに十分活かせるものとなったことは確かであった。同時に、白梅学園大学に「小学校教員養成課程」が存在するという大きなアピールになったことも確かだったのである。

これからの小学校教育フォーラムについては、もっと魅力ある、そして現場の先生方がぜひとも聞きに来たいという思いを持てるような内容にすると同時に、もっともっと現場の先生方にアピールしていくような工夫をしていきたい。

担当：子ども学科 増田修治

プログラム

新しい教科書で、何をどう教えるか？—4割増の教科書を、どう学力向上につなげるか—

「新学習指導要領と次年度教科書への対応」

白梅学園大学大学院研究科長 無藤 隆

「次年度教科書で、指導上配慮すべきこと」

東京学芸大学教授 浅沼 茂

「次年度教科書の編集趣旨について」

国語：東京書籍編集局国語編集部小学国語主任編集長 岡本 哲明

社会：教育出版小学校社会科編集長 丑山 修

算数：学校図書第二編集部部長 芹沢 克明

理科：大日本図書編集部部長 藤川 広

シンポジウム「次年度教科書をもとに、いかに学力向上につなげるか？」

シンポジウム1（国語，社会）

シンポジスト：東京学芸大学教授 浅沼 茂

白梅学園大学准教授 増田 修治

東京書籍 岡本 哲明

教育出版 丑山 修

司会・まとめ：白梅学園大学教授 村越 正則

シンポジウム2（算数，理科）

シンポジスト：白梅学園大学教授 無藤 隆

白梅学園大学講師 栗原 淳一

学校図書 芹沢 克明

大日本図書 藤川 広

司会・まとめ：白梅学園大学教授 星野 征男